

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 18 日現在

機関番号：32415

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870685

研究課題名(和文) 地域と図書館を結んだ戦後移動図書館の理念と成立に関する実証的研究

研究課題名(英文) An empirical study of mobile library connecting the library to community about realization and ideas in Postwar JAPAN

研究代表者

石川 敬史 (ISHIKAWA, Takashi)

十文字学園女子大学・人間生活学部・准教授

研究者番号：90634270

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：移動図書館は、単に図書を運ぶ手段ではなく、図書館の理念を実現するための一つの手段であった。同時に、何らかの移動手段によって図書館資料を運び、図書館員によるサービスを展開していた。戦後初期における日本の移動図書館は、図書の貸出のみならず、映画会などの文化を地域に運び、地域と図書館を確実につないでいた。「移動」する「図書館」活動は、多くの人々を巻き込み、地域や図書館のエンパワーメントにつながる。

研究成果の概要(英文)：Mobile library is one of the means for realizing ideas of the library, that is, not just for carrying books, but transporting the library materials through some ways and expanding the services by librarians. In post-war Japan, bookmobiles that were connected to libraries disseminated the culture of lending books and showing films in communities. The activities and services of mobile library leads to empowerment of the community and its libraries with public involvement.

研究分野：図書館学

キーワード：移動図書館 自動車文庫 図書館史 社会教育 文化運動

1. 研究開始当初の背景

(1) 戦後初期(1940-1950年代), 図書の入手が困難な時代に日本の移動図書館は、ひとつひとつの地域を巡回し、文化の灯として地域に与えた影響は大きかった。移動図書館の活動は、図書館内の「館(やかた)」のサービスに留まらず、図書館が地域に飛び出し、多くの地域住民と図書館員とが対話する場になった。図書の貸出以外にも、映画会・演芸会・読書会・レコードコンサートなどが開催され、地域住民の力と図書館員の力が車の両輪となり、移動図書館を共に支えていた。しかし、戦後日本の移動図書館活動について、地域の独自性を踏まえた実証的な調査が乏しい。

(2) 移動図書館について、図書館ネットワーク(全域奉仕)の視点のみならず、地域や住民の視点から、住民が生活の中に移動図書館をどのように受け入れ、地域の学習活動へどのように結びつけたのかを実証的に調査、分析する。すなわち、図書館の利用を日常生活の一部とするため、地域に図書館が飛び出し、文化を運び、地域住民と図書館員が共に移動図書館を支えた戦後初期(1940-1950年代)の目的や理念の中に、現在、見つめ直すべき図書館運営の在り方や、地域に位置する図書館の意義が隠れているといえる。

(3) 本研究では、戦後移動図書館の成立や、目的と理念、地域との結びつきを検討する中から、女性や子どもによる移動図書館の利用傾向、住民の学習活動への展開、図書館の指導者層(館長)による啓蒙的な条件整備の思想が明らかになると考えている。当時、各図書館における移動図書館費は、図書館費総額の20-30%を占めていたことから、戦後の館外奉仕活動における位置づけや、1960年代以降の図書館の発展に係る要因を考察することにつながる。

2. 研究の目的

以下の4点の研究視角に基づき、研究を実施する。

(1) 開架式書架と個人貸出を地域に運んだ意義と具体的な運営方法

多くの都道府県に自動車という近代的な装置で「図書館」を運ぶ方法が拡大した経緯と、個々の地域での具体的な運営方法を実証的に明らかにする。

(2) 戦後移動図書館の形成と成立

各地域における移動図書館実施の経緯と活動内容を調査し、戦前から実施された巡回文庫方式(団体貸出方式)と戦後の移動図書館の方法との関係性を解明する。

(3) 移動図書館の目的・理念

戦後日本における移動図書館の成立に関

する調査を踏まえ、移動図書館の目的や理念を考察する。既に「全国移動図書館運営協議会」(1953年から1955年に開催)において、徳島方式(1日中駐車)と千葉方式(40-50分の駐車)との方法が活発に議論されていた。こうした手段の背景には、移動図書館が目指した目的と理念の違いがあると推測できる。

(4) 地域社会における移動図書館の受容

1950年代の移動図書館は、地域の活動や住民の生活の中にどのように受け入れられ、地域に何をもたらしたのかを解明する。同時に、「図書館」が地域に運ばれた意義と受容された社会的背景も検討する。そして、市町村の図書館設置や図書館づくり運動との連続性と断絶性に関する枠組みと要因を分析する。

3. 研究の方法

本研究の方法は以下の通りである。戦後初期の移動図書館活動を実証的に明らかにするため、図書館や公文書館における一次資料の収集を行った。また、地域社会における移動図書館の受容については、各地の移動図書館の実地調査を実施した。

(1) 1949年9月に戦後最も早く移動図書館の巡回を開始したとされる千葉県立図書館「ひかり号」以前に巡回を開始した、下記地域に絞り調査した。

1947年10月に大阪府立図書館が実施した、中古のオート三輪による、図書の配本(団体貸出)、読書相談、ナトコ映写機による映画会について、事業内容と巡回目的に関する資料調査を行った。大阪府立中央図書館、大阪府立中之島図書館、大阪府立公文書総合センター、をはじめ、オート三輪が巡回した大阪府能勢町(旧市町村名:歌垣村、西能勢村等)において資料調査を実施した。

1948年7月に巡回を開始した高知県の移動図書館(自動車文庫)が国内初であるとしている。図書の配本は「巡回文庫輸送の型」で従来の巡回文庫や貸出文庫の方式と変わらないが、映画会、農業懇談会、生活改善座談会などが行なわれた。千葉県と大きく異なった高知県の移動図書館の方法や活動内容について、国立国会図書館、高知県立図書館、高知県庁、高知県議会図書室を中心に資料調査を行い、実証的に分析した。

鹿児島県では、巡回文庫型で各地の出張所(配本所)を巡回する移動図書館を1949年3月に開始した。これは高知県や千葉県とも異なる方法である。よって、自動車の運行と出張所の設置により県内全域でサービスを回った館外奉仕活動の特徴について、鹿児島県立図書館所蔵資料を中心に収集・分析した。

(2) 移動図書館の方法が異なる背景には、移動図書館が目指した目的と理念の違いがあると考えられる。従来のモデルとは異なる方式で行われた以下の地域に絞り調査した。

徳島県の一泊二日による「文化バス」の調査である。1950年7月に開始した徳島県の移動図書館（正式名称：文化バス）は、千葉方式（40-50分の駐車）とは異なり、1日駐車・年1回の巡回であった。徳島県立図書館、徳島県文庫館、徳島市立図書館、国立国会図書館、日本図書館協会資料室等にて、資料収集し分析した。

貸出文庫方式による館外奉仕活動の調査である。戦後、移動図書館を実施せず、貸出文庫として館外奉仕活動を実施した地域が存在する。特に神奈川県と香川県は1948年から1949年にかけて貸出文庫を開始した。そこで、神奈川県公文書館、香川県立図書館、香川県文庫館等にて資料を収集し、両県における貸出文庫実施の経緯と目的、具体的な活動内容の調査を実施した。

岡山市の移動図書館の歴史は、1922年の持廻り文庫方式の「岡山市婦人読書会」が源流であり、戦後の豊かな移動図書館実践に結びついている。戦前期と戦後期の連続性、図書館設置との関連性を調査するために、岡山市立図書館、岡山県立図書館において、資料を収集し、こうした活動内容を調査した。

(3) これら戦後期の調査とともに、地域社会における移動図書館の受容と住民の学習活動への展開を実証的に調査するため、埼玉県ふじみ野市、大阪府堺市、高知県、大阪府枚方市、岡山県岡山市、楽天株式会社「楽天いどうとしょかん」（群馬県草津町、大泉町）、株式会社講談社「全国訪問おはなし隊」（長野県上田市）、特種自動車車体工場の株式会社林田製作所（埼玉県さいたま市）の実地調査を行なった。

4. 研究成果

本研究では、戦後初期（1940-1950年代）における日本の移動図書館活動を対象に、巡回開始の経緯や目的、活動内容、住民の活動への結びつきなどを一次資料に基づき、実証的に調査した。本研究による成果は以下のように整理することができる。

なお、これらの成果は、日本社会教育学会における研究発表をはじめ、全国の公共図書館に配布される『図書館車の窓』（株式会社林田製作所編集）に定期的に報告し、研究成果を広く社会（図書館現場）に還元することができた。他方で、本研究期間内において一次資料の収集と分析に留まっている成果内容もあり、今後は学術論文として整理・分析することが求められる。

(1) 戦後初期の移動図書館活動について、以下のように実証的に調査することができた。

1948年7月に巡回を開始した高知県における移動図書館（「自動車文庫」）は、戦後最も早期に開始した活動といわれている。この高知県の活動は、戦前期の巡回文庫活動との連続性をみることができた。第一に、1917年6月に開始した巡回文庫が県内各地に拡大し、町村の図書館設置への期待がなされたこと、第二に巡回文庫の活動とあわせて、県立図書館職員による町村図書館設置や青年団等への読書組織への指導がみられたこと、第三にアメリカの移動図書館の紹介がなされ、移動図書館の早期導入を検討していたことがあった。戦後に開始した高知県の「自動車文庫」は、高知県立図書館長の川村源七と視学（社会教育・図書館担当）の川上定男の会話による。そして「自動車文庫」は、1948年の第2回青年団幹部講習会へ巡回し、以後、各地の青年団体を対象に、文化指導的な使命も含めて各地を巡回した。高知県の「自動車文庫」は、青年団など地域のさまざまな団体が「自動車文庫」を活用することで、地域に読書会や読書施設の設置機運を図るための契機となる近代的装置であることが明らかになった。

1950年7月に巡回を開始した徳島県立図書館における移動図書館（「文化バス」）は、一日駐車、年一回の巡回、図書の閲覧（貸出不可）、紙芝居や講演会などの文化活動の重視など、多くの図書館で拡大した「千葉方式」とは異なる方法であった。徳島県の「文化バス」は、戦前期の巡回文庫の活動をひとつの源流とみることができる。例えば、1931年の婦人読書会の創設と配本、1933年の臨海文庫、1940年の出張図書館の開設などがある。しかし、「文化バス」活動の最も大きな源流としては、徳島県憲法記念館の設置である。1949年に開館した徳島県憲法記念館は、中央公民館と県立図書館の機能・役割を担い、憲法普及会の活動を背景に新憲法の実現を大きな理念として掲げていた。「文化バス」は1950年に巡回を開始するが、1949年の徳島県憲法記念館創設時に既に構想されていた。このように、徳島県の「文化バス」は、徳島県憲法記念館の活動の一つであり、徳島県憲法記念館の理念・目的を実現するための文化活動の一つであったことが明らかになった。

1948年11月3-8日の読書週間にオート三輪で「巡回読書会」と称して巡回した大阪府立図書館の活動は、戦後の移動図書館として位置できるといえる。1950年には小池清作により「自動車文庫運営大綱」が発表され、従来の貸出文庫のルートを踏まえ、各市町村に赴き、自動車文庫の巡回の準備が行われた。「自動車文庫」の活動については、大阪府立

図書館に関連資料が存在し、その活動状況（自動車文庫の拡大と府内における配本所の設置等）を実証的に明らかにできる資料を収集することができた。しかし、戦後初期（早期に巡回を開始した）のオート三輪の活動については、大阪府公文書館や能勢町社会教育課に関連資料が存在せず、十分な分析には至っていない。また、鹿児島県立図書館による「自動車文庫」は、県内に設置された配本所へ図書を運搬する配本車として位置されていたことが明らかになった。「自動車文庫」とは別に、「移動図書館」が実施されていたことが関連資料に記載されていたことから、「移動図書館」の定義について当時明確に定められていないことが推測できる。他方で、香川県と神奈川県では、戦後初期に移動図書館ではなく貸出文庫の活動が行われていた。香川県の貸出文庫は、香川県立図書館が1947年2月に巡回を開始した。移動図書館とは異なり、配本車であったが、香川県公文書館・香川県立図書館に当時の関連資料の所蔵が十分ではなかった。神奈川県の貸出文庫については、神奈川県教育委員会が1949年4月に巡回を開始した。当初は図書館としての活動ではなく、社会教育における活動として位置されていたことがわかったが、これら調査は、一次資料の収集に留まり、今後は資料の分析を進める。

岡山市の移動図書館については、現在、4台の移動図書館車で活動が行われている。少年院や特別支援学校、高齢者施設など利用者層のすそ野が広い。こうした岡山市の活動は、戦前期の「岡山市婦人読書会」による家庭配本（1922年より、配本用三輪自転車）が源流であった。この他にも、理髪文庫、児童文庫、郵便局文庫など市内各地への館外活動が存在した。戦後期には、「岡山市読書クラブ」の家庭配本（1952年開始）、さらには1970年には、「岡山市読書クラブ」会員の身体障害者の自宅へ配本を広げるため、「身体障害者家庭配本制度」を開始した。1972年には移動図書館車の夜間巡回、1970年代中頃には岡山少年院への巡回を開始する。こうした岡山市の豊かな移動図書館実践には、戦前期からの積み重ねとともに、楠田五郎太、吉岡三平、黒崎義博などの「移動図書館人」の志が引き継がれ、地域の中に図書と「移動図書館人」が自然と溶け込んでいたことが明らかになった。そして、現在もこうした移動図書館の理念は、枯れることなく岡山市に流れていた。

1970年代には、創造的な移動図書館活動を各地でみることができた。例えば、大阪府夕陽丘図書館では、1979年に豊能町にて一日緑陰図書館が開催された。自動車文庫による図書の貸出のほか、読み聞かせ、紙芝居、手作りおもちゃの制作など、地域団体とのつながり、多数の子どもの参加から、移動図書

館が図書館員や地域住民など人と人の輪をつくっていることがわかる。この他にも、一日図書館車（埼玉県立浦和図書館）、船の移動図書館「ひまわり号」（広島県立図書館）などの実践がある。

このように戦後初期の移動図書館活動を分析すると、第一に戦前期における巡回文庫活動との連続性、第二に移動図書館活動を実施する施設（組織）母体における理念と目的、第三に戦後期の図書館理念と読書活動の普及に対する図書館員の熱意・エネルギー、第四に都道府県立図書館における都道府県内全域活動への意向といった特質と位置を明らかにすることができた。

(2) 戦後初期の移動図書館調査と、各地の移動図書館の実地調査を踏まえ、現在の移動図書館活動の課題として、以下の点を明らかにすることができた。

移動図書館とは、何らかの移動手段によって図書館資料を運び、図書館員によるサービスを展開することである。かつてはリヤカーや船などの手段も用いられたが、開架式書架を装備した特種用途自動車の活動を指す場合が多い。しかし広義には、緑陰図書館や書架がない移動図書館車の巡回の事例のように、「移動」する「図書館」としての活動が含まれることが明らかになった。こうした移動図書館の用語・概念を整理することにより、全国の移動図書館活動の共有化と全国の移動図書館実態調査の必要性を明らかにすることができた。

移動図書館に関する絵本を分析すると、移動図書館の用語を超え、本を運び届ける人々の純粋な想いと内に秘めた使命感を読み取ることができる。地域に本や図書館が届けられると、どのような手段であっても、一人ひとりが引き付けられ、多くの人々が集い、地域や子どもたちが育まれる姿が描かれていた。

移動図書館が「蔵書のショーウィンドー」であるならば、移動図書館は何を運び、どこに図書を届けるのかを再考することにつながる。すなわち、館（建物）としてストックしている蔵書や情報資源に対して移動図書館がどのように向き合い選択するかが鍵である。巡回先としては、病院や高齢者施設などの建物のほかに、子育て、自然・環境、まちづくりなど生活課題を抱える住民にもとに資料・情報や情報リテラシー支援を運ぶという視角もある。子どもの貧困、DV被害者、孤独な高齢者など、社会的な孤立を深める住民に対して、図書館が他の教育機関と連携し、情報アクセスの空白を埋めるための一つの手段として、移動図書館を活かすことができる。

このように、移動図書館は、消費社会に浸透するのではなく、地域社会と時間を共有し、自治や共同を育み、信頼関係を構築している。図書館員が移動することは、図書館サービスとともに図書館員が抱く「図書館」への想いが「移動」することでもあり、地域や住民にエンパワーメントを運ぶことにもつながることがわかる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 13 件)

石川敬史, 移動図書館の定義と台数からみえる課題(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 1 回) 図書館車の窓, 査読無, 94 号, 2013, 5-6.

石川敬史, 1950 年代の移動図書館実践(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 2 回), 図書館車の窓, 査読無, 95 号, 2013, 5-6.

石川敬史, 1960~1970 年代の移動図書館実践(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 3 回), 図書館車の窓, 査読無, 95 号, 2014, 6-7.

石川敬史, 移動図書館見学記(1): 高知県立図書館(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 4 回) 図書館車の窓, 査読無, 97 号, 2014, 6-7.

石川敬史, 移動図書館見学記(2): 大阪府堺市, 埼玉県ふじみ野市(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 5 回), 図書館車の窓, 査読無, 98 号, 2014, 5-6.

石川敬史, 移動図書館車の愛称・ニックネーム(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 6 回), 図書館車の窓, 査読無, 99 号, 2014, 6-7.

石川敬史, 「移動図書館人」のエネルギー(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 7 回), 図書館車の窓, 査読無, 100 号, 2014, 6-7.

石川敬史, 働くクルマとしての移動図書館(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 8 回), 図書館車の窓, 査読無, 101 号, 2015, 3-4.

石川敬史, 移動図書館の再発見, 図書館雑誌, 109 巻 7 号, 査読無, 2015, 426-428.

石川敬史, 移動図書館の物語(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 9 回) 図書館車の窓, 査読無, 102 号, 2015, 3-4.

石川敬史, 図書館の理念を運ぶ移動図書館(地域と図書館をつなぐ移動図書館, 第 10 回) 図書館車の窓, 査読無, 103 号, 2015, 3-4.

石川敬史, 移動図書館の「足音」を視る(移動図書館の足音, 第 1 回) 図書館車の窓, 査読無, 104 号, 2016, 3-4.

石川敬史, 岡山市における「動く図書館」の歩み(移動図書館の足音, 第 2 回) 図書館車の窓, 査読無, 105 号, 2016, 4-6.

〔学会発表〕(計 2 件)

石川敬史, 戦後移動図書館の成立に関する考察: 高知県立図書館を事例として, 日本社会教育学会第 61 回研究大会, 2014.9.26, 福井大学(福井県福井市).

石川敬史, 戦後移動図書館の理念に関する分析: 徳島県立図書館における「文化バス」を事例に, 日本社会教育学会第 62 回研究大会, 2015.9.19, 首都大学東京(東京都八王子市).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 敬史 (ISHIKAWA Takashi)

十文字学園女子大学・人間生活学部・准教授

研究者番号: 90634270